

報道関係各位

2010年6月9日

**国産材の需要を創出し、適切な森林整備に貢献！
2×4工法の賃貸住宅に国産スギ間伐材を活用**

大東建託株式会社では、熊本県において、2×4工法の賃貸住宅に国産スギ間伐材を活用する取り組みを開始しましたので、以下の通りお知らせします。

記

1. スギ間伐材を活用した賃貸住宅

一般に国内で流通している2×4工法の構造用製材には、北米産のS-P-Fという樹種グループが使用されています。当社では、2009年10月より、2×4賃貸住宅のスタッド(枠組部材のたて枠)に、熊本県産のスギ間伐材を利用する取り組みを開始しました。スギ間伐材を活用した賃貸住宅は、第1号の熊本県八代市の物件を皮切りに、6/1現在、17棟が完工し、30棟が建築中です。

この取り組みは、全国で初めてスギの2×4材のJAS認定を取得した株式会社松島木材センター(熊本県上天草市)、熊本県、熊本県林業研究指導所、九州森林管理局及び当社の連携・協力により実現しました。

■九州森林管理局のニューズリリースはこちらをご覧ください

→ http://www.rinya.maff.go.jp/kyusyu/pdf/220526_2bai4.pdf

2. 間伐による森林保全に貢献

日本国内には、スギやマツ、ヒノキなどの人工林を中心として、間伐等の手入れを必要とする森林が多くあります。間伐が実施された森林は、地表に十分な陽光が入ることで草木が育ち、地表の土が守られ、森林のもつ貯水・治水機能を高めることができます。また、適切に手入れを行うことにより、木々が活性化し、CO₂を吸収することで、温暖化防止にも寄与します。

当社が2×4賃貸住宅1棟に使用するスタッドは約14m³です。間伐材に換算すると約52m³、間伐面積約0.5haに相当します。

3. 国産材の需要創出による地域経済の活性化

健全な森林を整備するためには、主伐材や間伐材の利用推進を図りながら“植える→育てる→収穫する”というサイクルを継続することが重要です。これまで国産材がほとんど使われていなかった2×4工法の建築にスギ間伐材を活用することは、国産材の新たな需要を創出するとともに、適切な森林整備の推進に貢献することができます。また、建設地域で育った木材を建築に利用することは地産地消を推進し、林業を中心に地域産業の活性化にも寄与します。

当社では、熊本県での取り組みを検証し、全国で間伐材の活用の拡大に取り組んでまいります。

以上

この件に関するお問い合わせ先
大東建託(株)経営企画室
TEL. 03(6718)9068